

職員による自己評価

A 環境・体制整備

- ・曜日により利用人数が異なるため、スペース等に狭さを感じる場合がある。
- ・設備のバリアフリー化は配慮されているが、場所によっては死角等も存在するので、常に見守りが必要などもある。

B 業務改善

- ・業務改善を進めるためにミーティングを行うほか、スタッフ共有ノートを活用するなどして、常に情報を共有している。
- ・この自己評価の結果が、業務改善に繋がられているかは分からない。
- ・職員の資質向上のために、研修の機会をもっと確保してもらえよう希望する。

C 適切な支援の提供

- ・利用者個々のモニタリングを月1回のミーティングにて行っている。このまま定期的な見直しや話し合いを続けていきたい。
- ・普段は学年にてフロアを分けているが、それとは関係なく合同で行えるプログラムを立案していきたい。
- ・その日の活動終了後に全体で支援の振り返りを行うことは、退勤時間に差があるので難しいが、連絡ノートなどを活用し情報共有している。

D 関係機関や保護者との連携

- ・専門機関が主催するような研修があれば受講したい。
- ・保護者に対する支援は、自身の対応力が向上していないことからできていないが、これからはできるように努力していきたい。

E 保護者への説明責任等

- ・保護者同士の連携支援については、今後保護者懇談会等を開催することで定期的にできたらいいと思っている。
- ・会報は発行していないが、ホームページのブログを更新することで、保護者に対して情報を発信している。
- ・事業所の行事に地域住民を招待することは、スタッフ不足により難しいと思う。

F 非常時等の対応

- ・避難や救出等の訓練は、回数が少ないので増やしたらどうかと思う。
- ・虐待防止のための研修へ参加することを希望する。

保護者による評価

A 環境・体制整備

- ・スペースや職員配置のバランスから追加利用を受けることが困難だと言われるケースが多くなった。
- ・事業所の設備については、きちんと意識して見たことが無いので分からない。

B 適切な支援の提供

- ・放課後児童クラブや児童館との交流については、状況が分からないので判断できない。また、コロナ過の入所だったので分からない。

C 保護者への説明等

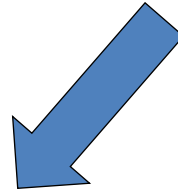
- ・保護者会等に参加していないので、保護者同士の連携・支援については判断や評価ができない。
- ・父母の会の活動の支援等については、コロナ過の入所だったので分からない。

D 非常時等の対応

- ・非常時対応マニュアル等の整備および避難訓練等の実施については、定期的に行われているようである。

E 満足度

- ・事業所の支援については、季節の行事や長期休暇中のイベントなど、とてもよく考えていただいて満足している。また、すべてのスタッフの方が誠意をもって対応していただいているので、安心して子どもを預けることができる。
- ・いつも子どもたちを親身に見てくださって感謝している。引き続きお願いしたいと思っている。



事業所内での分析

【共通点】

- ・曜日によっては利用人数が異なるため、スペース等に狭さを感じるがあった。また、急な追加での利用希望に応じられないケースも出ていた。
- ・コロナ過の時期は、保護者との面談や他方面との交流ができていない。

【相違点】

- ・定例ミーティング等にて、利用者の情報共有やイベント関係の打ち合わせはできている。但し、会報などで保護者にお知らせする機会が無く、普段の活動や支援の内容については分からないといった意見が多かった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・ホームページの活用と更新により、日々の活動内容が保護者にも伝わるようになってきた。また、季節の行事や長期の学校休暇中のイベントが充実しており、とても満足しているという保護者からの意見を多く聞いている。
- ・小学校4年生までと5年生以上に活動場所を分けることで、学習や遊びの中身がそれぞれの利用者に合ったものとなっている。それが事業所のコンセプトである自立支援と学習支援の連携にも繋がっている。

事業所の改善点

- ・保護者懇談会の定期的な実施により、保護者が抱えている悩みに寄り添い、更なるニーズの掘り起こしに役立てる。また、参加した保護者間の横の繋がりに発展させていく。

事業所の改善への取り組み

- ・お出かけイベントの更なる充実とホームページの情報更新を常に行うことで、事業所の活動を内外に発信していく。
- ・漢字検定および数学検定を定着させ、利用者の学習におけるモチベーションの向上に繋げる。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者からは、スタッフの対応にとっても感謝しているという意見を多くいただいた。これからも現状に満足することなく、更なる発展を目指して日々努力していきたいと考えている。

事業所名 プレップサポートセンター屏風ヶ浦

担当者 丹生 浩彰